

## 「景浦将選手 1937年秋季首位打者袖章」

財団法人 野球体育博物館は4月1日に公益財団法人に移行し、「公益財団法人 野球殿堂博物館」と改称しました。1959年の開館以来、初めての名称変更です。これを記念して当館では現在、特別展「野球殿堂のあゆみ」を開催中です(7月7日まで開催)。

今回は、「野球殿堂」にちなみ、殿堂入り選手ゆかりの資料の中から、大変めずらしい袖章(ワッペン)をご紹介します。この袖章は、1937年秋季シーズンの首位打者を獲得した景浦将選手(タイガース・65年野球殿堂入り)に贈られたものです。

1936年にスタートした日本プロ野球公式戦は、37、38年の2年間は春秋の2シーズン制で行われました。37年秋のシーズン、タイガースは2位の巨人に9ゲーム差をつけ39勝9敗1分けと圧倒的な成績で優勝します。景浦選手はチームの中心打者として活躍、打率.333の成績で首位打者となりました。

景浦選手は、プロ野球草創期の投打の主役として沢村栄治投手(巨人)と並び称され、37年春、38年春には最多打点を記録するなど豪快な打撃で人気を集めました。一方で、投手としても活躍し、36年秋には6勝0敗で勝率10割、最優秀防御率となる0.79を記録、37年春にも防御率0.93で11勝をあげており、いわば“元祖・二刀流”ともいえるのではないのでしょうか。

この袖章のサイズは8.5cm×6.8cmで厚さは約0.9cm。日本職業野球連盟のマークの下に、大型の鳥、バットが図案化され、「LEADING HITTER」、「1937 AUTUMN」と刺繍されています。残念ながらこのシーズン限りの記念品のようです。

景浦選手は1936~39年、43年の5年間の選手生活の後、45年にフィリピンで戦死されました。この袖章は、同じ愛媛出身で立大時代の同窓生でもある坪内道則氏(92年野球殿堂入り)が預かっていたもので、現在は当博物館で収蔵しており、常設展示・プロ野球の歴史コーナーで展示しています。



【野球殿堂博物館】 [www.baseball-museum.or.jp](http://www.baseball-museum.or.jp)